



「祖母と義経」

山幽谷に迷い込んでしまった。彼

らは、道を知らなかつたけれども、

古来から、京都と熊野、さらに伊勢

にいたる山間の路はしつかりと確

保されていた。奥吉野のあちこちに、

義経伝説が残さ

東吉野村の祖母の家の前

に、藤が伸びて木陰になった

泉がある。そこに義経が休憩したと伝えられている岩

がある。祖母の句に「義経の腰かけ岩のあるあたり、藤

井の水はいまも流れて」がある。時を越えて、昔と今がつながったイメージあふれる

歌である。106歳まで生きた祖母も、3年前に逝った。

いまも湧き出る泉をみて、そこを通過して山を越えたであ

らう義経主従を思い、長命だった祖母を思い、こんこん

と清水を湧きつづける地球の神秘を思う。東吉野の民

話（東吉野村教育委員会、平成4年発行）を参考に行きました。

医学博士 西浦信博

（京阪病院院長）

NHK大河ドラマ「義経」の44回目で、ようやく『吉野』がでてきた。大物浦から船出した二行は風にあい、和泉の浜に上陸した。やがて到着したところは、吉野山の金峰山寺、水分神社のある下千本のあたり、800年前の冬であった。静御前とわかれて、義経、弁慶の主従は女人結界を越えて深

れている。これ以上、山が険しくて進めないのを馬を放置したといわれる所が「御前坪」という地名となったという。「馬谷」「馬隠し」は山の中の、とても馬などきそうもない所の地名である。たかが民話と侮つてはいけない。稚拙な地名だけに義経の吉野逃避行の「実事」をよけい信じたくなる。↙